

三月三〇日

十時シャープ富田本部長来室。台北李祖原と連絡。北京の計画の背景の全体がようやく視えてきた。ゴールだけはつきりしていて、プロセスは混沌とするなコレワ。シャープにリスクを負わせではならぬ事はハッキリしている。社若松氏モスクワより帰国、十四時新宿で会う。深夜台北の李祖原より電話あり。会話ではクリアーにならぬ部分があるので明日研究室へFAXしてくれと告げる。北京へ行くか、北京が東京に来るかだ、早急に決めなくては。中国の度真中北京の、又ド真中に、いかにも現代中国らしい力オスがある。

三月三一日

昨日は終日、北京の件の対応に追われた。混沌の中に最大のチャンスがあるのにはすでに知っているが、いざ実際に対面すると仲々厳しい判断を強いられる。こういう事はなまじな経験は役に立たぬ。機会があれば北京が東京に来てミーティングを共にしたい旨連絡する事を決めた。

四月一日

十時三〇分研究室。軽井沢S邸打合わせ。四月着工とする。ドイツ・ワイマール、ライター教授より着信。上田幸和建設と連絡。九州の工務店他と連絡取る。広島の本木君とも日曜の夜福岡で会う事にした。十七時小休。

夕方、さんさんごと研究室OB、集まる。そうなんだ。今日は私の誕生日であった。社の若松社長、見知らぬロシア人まで来てくれて小さな宴会となる。OB達、稲門建築会等早大への失望を述べる。それなら、君、新しい組織に組み変えたらいいのだよ、私もホラを吹いたり、実は本音なのだが、OB会は世代を一新した方がいい。

昨日の夕刊に井上章一の弥生神殿についての探訪記があった。要するに、樹、山、巨石、川等に神を視ていた古代人の自然崇拜（アニミズム）にとつて建築としての神殿は必要なかった。あつても建築という形式まではたどり着かなかった。仏教が導入され寺院という建築に接し、弥生の人々は自然物崇拜にも建築という形式があると便利だと考え直すようになった。それで神社が生まれた。神殿の意味変遷は仏教寺院との関係が色濃く作用している。この人は考えてみれば、当たり前な事をを上手に表現する。只今、二十二時京王線車中。建築学科教室の新研究所を中心に、より実質的なビジネス情報のネットをつくれれば良いかも知れない。宮坂に出来るかな。二十二時半世田谷村に戻る。